

楽しく子育て!

第229号

発行日
2026年10月19日



～香川県立図書館 子育て支援コーナー通信～

毎月19日は「かがわ育児の日」

司書のオススメ本

～10月の新着図書から～



『AI時代・グローバル社会を生き抜くための方法 教育のプロが子育ての67のお悩みをまるっと解決』

松本玉井 満代, 杉野 浩弥／著
Gakken／刊 2026.9



『子どものイライラを改善する新しい食べ方 問題は「育て方」じゃなくて 血糖値かも?』

吉川 圭美／著 オレンジページ／刊
2026.9

思春期の子どもの気性が激しいのは、単なる栄養不足かもしれません。血糖値の乱高下を防ぎ、栄養状態を改善しましょう!

グローバル化が進み、AIが浸透した予測不能な社会で、子どもたちをどう育てるか。教育ビジネスを手掛けてきた著者が、「自分から学ぶ子になるには?」など、様々な子育ての悩みに答えます。

★この本と同じテーマの本は「3-4 子育てヒント」にあります。

★この本と同じテーマの本は「2-4 食育」にあります。



＜10月の新着図書～ほかにもこんな図書が入りました～＞()は棚のテーマと番号です。

(家族関係 1-1)

『株式会社夫婦』

下田美咲／著 サンクチュアリ出版／刊

(ハンドメイド 2-2)

『KIDS KNIT BOOK たいせつなきみに編むニット, 2～6才ウェアと小物』

なつめ, 山田だり, soft cheese／著
西東社／刊

(子育てと仕事 3-1)

『シングルマザー億り人になる 2人の子を抱えたパート勤務の極貧ママが決心した!』

勢口真理／著 プレジデント社／刊

(親子関係 3-2)

『子どもの「なりたい自分」に伴走する100の声かけ 頑張りが手放して』

田辺理／著, 西岡壱誠／編 笠間書院／刊

(子どものトラブル 4-4)

『「新型不登校」はこれで改善! Action Plan & Technique 気質・特性の自己理解×自己決定』

三浦 光哉／編著 ジアース教育新社／刊

(特別支援教育 5-3)

『発達障害グレーゾーンの子どもの怒りグセをゼロにする 幼児期からのアンガーマネジメント』

桜井ともこ／著 パステル出版／刊



🚗 県立図書館 子育て支援コーナーの本や雑誌は、お近くの公共図書館・公民館等を通じて貸出しすることができます。

🚗 香川県立図書館のカウンターでお借りになった本などを、お近くの公共図書館・公民館等で返すこともできます。(高松市内の図書館を除く。) 詳しくは、お近くの公共図書館等へご相談ください。

企画展示開催中！「知って安心！家族で防災」

期間：令和8年11月29日（日）まで

展示している本はすべて貸出できます。どうぞご利用ください。

防災の本や、自然災害について知る本、災害時に役立つ野外調理の本など、家族で災害に備えるために役立つ本を展示・貸出しています。

展示資料の中からご紹介します。

★災害時に役立つ野外調理の本

『キャンプ気分ではじめるおうち防災チャレンジBOOK』

鈴木 みき／[著] エクスナレッジ／刊

『免疫力アップレシピ 災害時も、普段も、役立つ「お湯ポチャ」調理』

今泉 マユ子／著 清流出版／刊

『おかわり山グルメ』小雀 陣二／[著] 柊出版社／刊

『七厘の本 感動するほど楽しい!』坂口 一真／著 スタジオタッククリエイティブ／刊



「こども図書館船 ほんのもり号」運航中！

世界的建築家・安藤忠雄さんが香川県へ寄贈した、子どもたちに本と体験を届ける「こども図書館船 ほんのもり号」が運航しています。県立図書館は選書や本の整理を担当したほか、寄港イベントにも参加しています。

興味のある方は「ほんのもり号」のサイトをご覧ください。運航情報等を公開しています。



謎解きイベント「はしる絵本を追え」

香川県立図書館の裏側の世界にある異世界図書館から、絵本が1冊走り去ってしまいました。

走る絵本が向かった先は、県立図書館！

こちらの世界に來られない異世界図書館司書の代わりに絵本を見つけてあげましょう。

期間：令和8年10月6日（火）～11月8日（日）（開館時間中に自由に参加できます。）

場所：香川県立図書館1階 閲覧室

* 図書館入口または、Young Generationコーナー窓際にある謎解きブックを持って、謎解きに出かけましょう！（プレイ時間目安：1時間程度）

* 中・高校生等10代が対象ですが、年齢制限はありません。



＜子育て支援担当より＞

朝夕が肌寒くなり、衣替えの季節です。私は毎年、子ども3人の衣替えが面倒だな～と思っていました。入れ替えながら、サイズアウトしたものをお下がりにもわしたり、処分したり。しかし気が付けば高校生の娘はもうサイズアウトすることもなくなり、好みに合わないものは自分で処分するようになりました。楽な反面、ちょっぴり寂しいものです。いつかこの作業を懐かしく思うのかもしれませんがね。